

第2回(平成21年度)IODP部会・執行部会 議事録(案)

日時: 2009年7月6日(月) 14:30~17:30

場所: 海洋研究開発機構東京事務所 大会議室

出席者(敬称略)

執行部: 山崎俊嗣(産業技術総合研究所) 安間 了(筑波大学) 末次大輔(海洋研究開発機構)
高澤栄一(新潟大学) 平野直人(東北大学) 松本 剛(琉球大学) 森田澄人(産業技術総合研究所)

リエゾン: 松本 良(BoG議長; 東京大学)

文部科学省海洋地球課: 堀 正彦 酒井祐介 肥田慎司

海洋研究開発機構 CDEX: 川村善久 倉本真一 福富 淳 阿波根直一 北見恵美里

事務局: 加賀谷一茶 梅津慶太(議事録原案作成)

欠席者(敬称略)

執行部: 芦 寿一郎(東京大学) 池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター) 沖野郷子(東京大学)
坂本竜彦(海洋研究開発機構) 林 広樹(島根大学) 山本啓之(海洋研究開発機構)
山本正伸(北海道大学)

議事次第

1. 専門部会・関連委員会報告

- (1) IODP 国内科学計画委員会〔山崎部会長〕..... 資料 1-1
- (2) 環境保護安全専門部会〔森田委員〕..... 資料 1-2
- (3) 科学計測専門部会〔事務局〕..... 資料 1-3
- (4) 各部会委員更新状況報告〔事務局〕

2. SAS パネル関連

- (1) #8 SASEC 会議報告〔山崎部会長〕..... 資料 2-1
- (2) #12 SSEP 会議報告〔高澤委員〕..... 資料 2-2
- (3) #10 EPSP 会議報告〔森田委員〕..... 資料 2-3
- (4) SPC 後任委員選出報告〔山崎部会長〕
- (5) IODP-MI BoG〔松本オブザーバー/山崎部会長〕..... 資料 2-4-1、2-4-2、2-4-3

3. INVEST 関連〔山崎部会長〕..... 資料 3-1、3-2、3-3

4. 乗船関連

- (1) IODP 乗船研究状況〔事務局〕..... 資料 4-1、4-2
- (2) Pacific Equatorial Age Transect〔山崎部会長〕
- (3) 掘削研究成果および掘削航海専門部会からの提言〔事務局〕..... 資料 4-3、4-4
- (4) Exp.317 Canterbury basin プレククルーズトレーニング〔事務局〕..... 資料 4-5

5. 学術交流関連

- (1) J-DESC コアスクール: 微化石コース開催企画案〔事務局〕..... 資料 5-1-1、5-1-2
- (2) IODP-ICDP タウンホールミーティング開催報告〔事務局〕
- (3) Asian IODP Consortium Meeting 報告〔山崎部会長〕..... 資料 5-2-1、5-2-2
- (4) K-IODP Summer course
- (5) 日韓プロポーザル状況報告〔松本委員〕

6. 普及広報関連活動報告〔事務局/平野委員〕..... 資料 6-1、6-2

7. 研究支援関係

- (1) 会員提案型活動経費選考結果報告〔安間部会長補佐〕..... 資料 7-1
- (2) IODP 掘削プロポーザル作成支援課題 選考結果報告〔事務局〕..... 資料 7-2
- (3) IODP 乗船研究者への研究費支援に向けて〔CDEX〕

8. IODP 活動に対する要望などの洗い出しと整理 ~結果検討~ 資料 8-1、8-2

9. その他

- ・次回執行部会開催日程

議事録(案)

1. 専門部会・関連委員会報告

(1) IODP 国内科学計画委員会 資料 1-1

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ MEXT からは、IODP の 2013 年以降の枠組みを考える IWG+ について下記の点について報告がなされた。
 - ・ アメリカは掘削船の運行経費をそれぞれの国でまかない、POC や SOC などといった枠組みは無くしたいと考えており、それに対し日本は現状のような均等貢献・均等権利を望んでいる。
 - ・ 科学計画の策定プロセスに関して、ライザー掘削とノンライザー掘削の計画の進め方については同じやり方ではうまくいかないであろうという意見で日米欧は一致している。
 - ・ IODP-MI 事務所について、ワシントンオフィス(本部)と札幌オフィスを統合し、東京海洋大学へ移転する準備が着々と進められている。

以下、堀企画官より補足説明がなされた。

- ・ アメリカとしては、ミッションという言葉はよくないが戦略的な計画は必要であるとの認識がある。
- ・ 2013 年以降というよりは今のフェイズで新しい枠組みを始めなければ、2013 年から始めることが難しいのではないかと認識がある。
- ・ IWG+ から INVEST に向けた Statement が近日中に出される予定。

(2) 環境保護安全専門部会〔森田委員〕 資料 1-2

森田委員より標記の件について報告がなされた。

- ・ 6/11,12 に開催された EPSP の事前会議として 6/1 に開催された。
- ・ EPSP 会議への対応を検討した。
- ・ 主な議論としては NanTroSEIZE Stage 3 について。
- ・ 次回日本開催候補地として横浜(CDEX/JAMSTEC)を推薦することで一致した。

(3) 科学計測専門部会〔事務局〕 資料 1-3

事務局より標記の件について説明がなされ、下記の点について承認された。

- ・ 山中専門部会委員が STP 委員に就任する。
- ・ 古生物 WG メンバーは共同議長 1 名の入れ替え以外の交代は行わず、タスクを継続する。
- ・ 今後のタスクの状況に応じてメンバーの入れ替え等を検討する。

(4) 各部会委員更新状況報告〔事務局〕

事務局より標記の件について説明がなされ、下記の点について承認された。

- ・ 事前調査専門部会の部会長に、芦氏に代わり小平氏が就任する。

(5) 技術開発推進専門部会〔森田委員〕

森田委員より標記の件について報告がなされた。

- ・ CDEX の技術開発の進行状況について報告があった(ライザーフェアリング、ライザーアングルロギングシステム、ライザーレスマッドロギング、高温用コアバレル等々)。
- ・ この春に東海大学の渡辺氏よりカーボン製ライザーパイプ(CFRP)に関する ED プロポーザルは POC で負担せよとのコメントが EDP よりあったとの報告があった。
- ・ 技術開発に関する日本の White paper がどのように EDP の White paper にどう反映されるか、そして、EDP からのものをどう INVEST に反映させるかについてコンセンサスが得られていない。

2. SAS パネル関連

(1) #8 SASEC 会議報告〔山崎部会長〕 資料 2-1

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ BoG/SASEC/SPC の役割について重複することが多く、役割を見直すべきとの意見があったが現在のフェイズで変更をすることは難しいという結論に至った。
- ・ INVEST の後、次期科学計画の作成や、科学計画及び IODP の実績の外部評価など、計画更新に向けて必要とされる各種の活動についてのスケジュールが議論された。
- ・ 科学計画書作成に当たるグループは、これまでに INVEST Steering Committee から 3 名を依頼しているが、さらに 10 名程度の委員を推薦する作業を進める。これは INVEST 直後にプレーメンで案を作り、10 月にメール投票にて決定する予定。
- ・ 新計画での掘削提案の扱い方について、これまでのような毎年提案を募るほかに、数年以上の期間をかけて大きな掘削計画を練り上げるやり方も必要であることを述べている。最終的な結論は次回 SASEC 会議にて議論する。
- ・ 河野議長と川幡委員が SASEC 委員を退任するため、後任委員の選出が必要

(2)#12 SSEP 会議報告〔高澤委員〕.....資料 2-2

高澤委員より標記の件について報告がなされた。

- ・ 通常 3 日間の会期だが、今回は INVEST に関する議題があり、4 日間の会期であった。
- ・ 23 のプロポーザルのレビューを行い、External Review から戻ってきた 3 本は、一つが 5☆、二つが 4☆で SPC に上程することになった。その他、APL1 件(742-APL)を SPC に上程、2 件を External Review に出すこととした。
- ・ 残念ながら 707A-Full2、707B-Full2 は Deactivate されてしまった。
- ・ 次回はオーストラリア、その次(2010 年 5 月予定)はアメリカの順番だが、日本になる。
- ・ プロポーザル 707 関連については、提案チームの体制の強化が必要である。掘削研究専門部会等でのサポートについても検討が必要。
- ・ 3 名の後任委員については Co-chair 候補も含め内定済み。

(3)#10 EPSP 会議報告〔森田委員〕.....資料 2-3

森田委員より資料 2-3 に基づき、標記の件について報告がなされた。

- ・ プロポーザルのレビューとプレビューが行われた。
- ・ おおよそのプロポーザルはそのまま承認、いくつかのプロポーザルがサイトの変更が必要であるとのコンセンサスを得た。
- ・ NanTroSEIZE Stage 3 について 7,000m 掘削についてレビューを行ったところ、孔井計画が完全に作成されていなかったなどの理由から、承認には至らなかった。
- ・ 現在行われている NanTroSEIZE Stage 2 の掘削のハザードピアレビューを行った(CDEX からの報告)。
- ・ ライザー掘削をどのように扱うかの Procedure は EPSP でまだ確立してはいない。
- ・ NanTroSEIZE の Contingency plan として 2010 年に East Asian Margin を行うには早めにレビューする必要があるため、今年の 9 月に開催するのが望ましいとされた。
- ・ E-mail ベースでのレビューを行うことを正式に決定した。
- ・ 次回は CDEX(横浜)で開催する予定(早ければ今年の 9 月)。

(4)SPC 後任委員選出報告〔山崎部会長〕

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 将来の Chair 候補を含め、8 月に 3 名の新委員が就任、2010 年 3 月には 1 名の新委員が就任することが決定している(幹事会の承認の後 IODP-MI に推薦済み)。
- ・ 8 月会議には 2 名の Alternate 委員が出席することが決定している(幹事会の承認の後 IODP-MI に推薦済み)。

(5)IODP-MI BoG〔松本オブザーバー／山崎部会長〕.....資料 2-4-1、2-4-2、2-4-3

BoG 松本議長より標記の件について説明がなされた。

- ・ 最近の会議では代表の交代、オフィスの移転についての議題が主なものとなっている。
- ・ オフィス移転について SSEP から決議が出たことは情報の共有がなされていなかったということで反省すべきである。
- ・ 日本からの IODP メンバーは 8 機関(北大:鈴木氏、東北大:石渡氏、産総研:佃氏、東大:松本氏-金沢氏、海洋機構:末廣氏-巽氏、東海大:長尾氏、高知大:渡邊氏、九大:高橋氏)。年間 5,000 ドルを支払っている。
- ・ アメリカでは、IODP メンバーになっていることは名誉なことであるという雰囲気がある。
- ・ 日本からの IODP メンバーのうち、北大、東大、海洋機構、高知大、九大が BoG(前者 3 機関が Executive Committee)。東北大、産総研、東海大が Alternate 委員。これは数年間変わっていないが、変えることもできる。
- ・ US、ECORD、日本はそれぞれの内部委員会での投票により BoG 候補者を決め、IODP Members Meeting の議長にノミネートするという手続きがある。
- ・ BoG 委員の国内での位置づけを再確認し、上述のノミネートに関わる手続きを含め、J-DESC が BoG 委員の委嘱をするべきであり、執行部での検討が必要である。
- ・ 情報の共有に関してある部分では非公式な話を国内で非公式に伝わっていく雰囲気になることが大切。
- ・ 来年の 6 月の会議には 1~2 名が新たに委員に就任する。これに伴い来年 3 月末~4 月初めには J-DESC からふさわしい人を推薦することになるだろう。
- ・ BoG、SASEC、J-DESC 執行部などのメンバーが集まり、戦略を検討する場を設けることが必要である。

本議題については今後執行部で議論することが合意された。

3. INVEST 関連〔山崎部会長〕.....資料 3-1、3-2、3-3

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 6/2 に INVEST 国内運営委員会が開催され、INVEST Steering Committee 委員から下記のような報告がなされた。

- ・ Break-out Session のチェア候補を選出し、依頼を進めている。日本人には 10 数名に依頼されている。
- ・ 各国の White paper の Science の部分に大きな違いはないが、日本の White paper にないことは Strategy の章である。そのため、日本においても Strategy について検討する必要がある。
- ・ 6/8 には日本の White paper に入っていなかった Strategy の部分について、MEXT、CDEX など主要なメンバーで話し合いがもたれた。
- ・ 6/29 にも INVEST 国内運営委員会が開催され、AESTO から旅費援を行う研究者の選考が行われた。最終的には 7/10 開催されるセッションチェア会議で決定される。
- ・ 文科省としては、研究者コミュニティに「ちきゅう」の運用の仕方を考えてほしい、ライザー掘削のプロジェクトをかなり具体的に絞ってほしいと考えている。

4. 乗船関連

(1)IODP 乗船研究状況〔事務局〕..... 資料 4-1、4-2

事務局および安間部会長補佐より標記の件について報告がなされた。

- ・ 2010 年 3 月以降の掘削航海スケジュールは 8 月に開催される SPC で決定される。
- ・ 最近の追加募集には募集人数を超える応募者があった。
- ・ MSP のスケジュールの確定について、ESO に早めに決定して知らせてもらえるようお願いのメールを出したが、備船契約の性質上スケジュールがなかなか決まらないのは仕方がないというような返信があった。

下記の点が合意された。

- ・ 以上を受けて、J-DESC としては乗船応募のウェブページに MSP のスケジュール決定に関して注意書きを加えるなどして、あらかじめ応募者に知らせておく必要がある(「MSP のスケジュールが不確定であり、3 か月程度機関に余裕がある人は応募してください」のように)。
- ・ サンプルリクエストの権利と義務(Sedimentologist として乗船しても Paleomagnetism 目的のサンプルリクエストが可能など)について J-DESC ウェブに解説ページを作成することが必要。

(2)Pacific Equatorial Age Transect〔山崎部会長〕

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ Exp. 320 と 321 が 1 セットの航海。
- ・ 乗船研究者の年齢分布をみると、日本人はポスドク～若手研究者が多いのに対し、欧米ではシニアな研究者が比較的多い。日本でも若手に加え、ベテランの研究者がもっと乗船するようになるとよい。
- ・ Exp. 321 では APC コアの最長記録(400m 以上)を打ち立てた。
- ・ JR 改造後初めての航海と言うこともあり、不具合も多かったがだいぶ改善されてきた。

(3)掘削研究成果および掘削航海専門部会からの提言〔事務局〕..... 資料 4-3、4-4

事務局より標記の件について説明がなされ、下記の通り合意された。

- ・ 提案項目 0907-01 を受け、終了した掘削航海の成果報告を JPGU の地球掘削科学セッションを利用して定期的な報告を行うこととする。セッション担当の沖野委員にアレンジをお願いすることが合意された。
- ・ 提案項目 0907-02 を受け、航海成果の日本語版特集号の出版について今後検討し第 4 期執行部の間に 1 回は刊行することを目指すことが合意された。
- ・ 提案項目 0907-03 を受け、一般向けの IODP 掘削研究成果のアウトリーチに関してマネジメント側も含め継続的に検討していくことが合意された。
- ・ 提案項目 0907-04 に関しては乗船研究費とも関連するため、今後の掘削航海への応募状況を考慮しながら検討することが合意された。

(4)Exp.317 Canterbury basin プレクルーズトレーニング〔事務局〕..... 資料 4-5

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 乗船者 3 名が入替わったこともあり、戦略の再確認のために 2 回目のプレクルーズトレーニングを行うことが承認された。

5. 学術交流関連

(1)J-DESC コアスクール:微化石コース開催企画案〔事務局〕..... 資料 5-1-1、5-1-2

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 開催日程は 8/19～21。参加募集は執行部で承認が得られ次第開始する。
- ・ 東北大学の GCOE と共催で予算の大部分は GCOE から支出する。
- ・ 予算案は承認された。

(2)IODP-ICDP タウンホールミーティング開催報告〔事務局〕

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 5/19 に幕張メッセで開催。約 100 名の参加が得られた。
- ・ J-DESC の会費からアルコール代を含む飲食代が支出されている件について、J-DESC の対 AESTO 担当役からこのままでは予算の執行を承認できない旨の連絡が来た。
- ・ これに関しては、賛助会員 1 企業からの会費から支出したことにするととの了承を得たため、そのように決着した。

来年度以降の開催については、会員総会でしっかりと説明を行い、承認をとることが合意された。

(3) Asian IODP Consortium Meeting 報告〔山崎部会長〕 資料 5-2-1、5-2-2

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 韓国、中国、ANZIC(オーストラリアニュージーランド連合)、インドが Associate member として IODP に参加しており、一つのコンソーシアムにまとめフルメンバーとして参加すべく活動を行っている。
- ・ 韓国と ANZIC は積極的だが、中国、インドは消極的であり、これが実現するかどうかはかなり不明瞭という印象がある。

(4) K-IODP Summer course

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ 8 月下旬に韓国でサマースクールを開催するため、日本から講師を派遣してほしい旨の要請が正式にあった。
- ・ 現在派遣する講師を検討中である。
- ・ 日本のコアスクールにも韓国からの参加者を受け入れることも今後検討する。

(5) 日韓プロポーザル状況報告〔松本委員〕

松本委員より標記の件について報告がなされた。

- ・ 古海洋とテクトニクス の 2 つのグループで検討を行っている。
- ・ 2 回目のワークショップの調整を行っていたが日程調整がうまくいかず、大きな進展はない。
- ・ 10 月中旬以降～AGU の前までにワークショップを開催する方向で進めている。
- ・ ANZIC の研究者が日韓での共同プロポーザルに興味を示している。

6. 普及広報関連活動報告〔事務局／平野委員〕 資料 6-1、6-2

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 船上レポートの更新を Exp. 320 から始めた。Exp. 323 でも同様に更新していく予定。
- ・ 9/5 に横浜港にて一般向け JR のシブツツアーを計画中。9/6 には関係者向けのシブツツアーも検討している。
- ・ IODP 普及キャンペーンは 7/31～8/2 に信州大学、10/9～11 に東北大学、11 月中旬に愛媛大学で開催予定。
- ・ もう 1 か所の候補地について後ほど事務局よりメールを送り、決定する。

7. 研究支援関係

(1) 会員提案型活動経費選考結果報告〔安間部会長補佐〕 資料 7-1

安間部会長補佐より標記の件について報告がなされた。

- ・ 2 件の申請があった。
- ・ 1 件の提案は 15 万円、もう 1 件の提案は 35 万円で採択した。

(2) IODP 掘削プロポーザル作成支援課題 選考結果報告〔事務局〕 資料 7-2

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 今年度より、A と B の申請区分を設けた。A はこれまで通りの研究費支援、B は英文校閲など一部分の支援。
- ・ A に 3 件、B に 2 件の応募があり、全体予算との関連もあり全応募を減額したうえで採択した。
- ・ 採択額の合計は 470 万円であり、予算は 30 万円残してある。残した予算は B への応募のためであり、これは随時募集を行っている。

(3) IODP 乗船研究者への研究費支援に向けて〔CDEX〕

CDEX 倉本氏より標記の件について説明がなされた。

- ・ 目標として今年度 9 月までに乗船した人に平均 50 万円の研究資金を渡す方向で検討している(一律ではない)。
- ・ プロポーザルを提出してもらい、審査をするのが妥当と考えている。
- ・ 誰に研究費を配るか(若手だとしたらその範囲)? 外部資金との兼ね合い、プロポーザルをどのように書いてもらうか? どのように研究費を渡すか? すでに整備されている J-DESC からの支援との重複など、検討すべき点があり、これら以外にも洗い出しが必要。
- ・ 山崎部会長が検討すべき点についてリストアップし、次回執行部会で集中的に議論する。

8. IODP 活動に対する要望などの洗い出しと整理 ～結果検討～.....資料 8-1、8-2

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- これまでに 1 件の要望があった。内容は、SPC への対応を掘削研究専門部会と連携し、強化すべきであるというもの。執行部から SPC 委員を出すのも強化策の一つであるとの提案があった。
- SPC への対応は執行部として行うべきであることはもともとであり、今後対応を行っていく。
- これまであまり意見が集まらなかったことを受け、意見聴取の仕方を山崎部会長が検討する。

9. その他

・次回執行部会開催日程

8 月中旬より前での開催を調整する。